

衆議院農林水産委員会ニュース

平成 25. 5. 16 第 183 回国会第 8 号

5 月 16 日（木）、第 8 回の委員会が開かれました。

1 森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法の一部を改正する法律案（内閣提出第 21 号）

- ・林農林水産大臣、江藤農林水産副大臣、長島農林水産大臣政務官、平経済産業大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
- ・採決を行った結果、全会一致をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。
（賛成一自民、民主、維新、公明、みんな、生活）

（質疑者及び主な質疑内容）

武井俊輔君（自民）

- ・今後の森林・林業政策は、産業政策と環境政策のどちらに軸足を置いて実施していくのか。
- ・森林資源が成熟しつつある中、今後は皆伐・再造林を中心とした新しい形の森林施業を進めるべきではないか。
- ・森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法の改正は今後の林業行政にどのように資するのか。

石田祝稔君（公明）

- ・地球温暖化対策のための税の用途に森林吸収源対策を位置付けるため、農林水産大臣は来年度の税制改正にどのような決意で臨むのか。
- ・「特定母樹」の対象樹種はどのような樹種を想定しているのか。また、花粉症対策としても考慮されているのか。
- ・森林整備事業の実施に係る森林所有者への負担軽減のため、過疎対策事業債の活用も可能なのか。

鷲尾英一郎君（民主）

- ・グローバルスタンダードに基づいた農業関連予算の議論を行う必要があるのではないかと。
- ・構造用集成材における国産材の割合が低い理由は何か。また、国産材の割合を増加させるため、どのような施策を考えているのか。
- ・林業の成長産業化に向け、路網密度について積極的な目標設定を行うべきではないかと。

寺島義幸君（民主）

- ・春先の低温、降雪等の異常気象による全国的な農作物の凍霜害等の被害はどのような状況か。また、共済金を早期に支払う必要があると考えるが、どのように対応する

のか。

- ・これまで講じられた森林吸収源対策について、どの程度の予算を費やし、どのような成果があったのか。
- ・今後の森林吸収源対策及び地方の地球温暖化対策の安定的な財源確保のためにどのように取り組む考えか。

鈴木義弘君（維新）

- ・育成林、天然生林を何年かけて、どのように増やしていく考えか。
- ・地球温暖化対策を国策とするのであれば、私有林についても国が責任をもって整備する必要があるのではないかと。
- ・外材との競争力をもたせるためにはエンドユーザーに国産材を使ってもらうための支援も必要ではないかと。

百瀬智之君（維新）

- ・全国的な木材の需要拡大のために、どのような取組を考えているか。
- ・鳥獣被害対策のために、農林水産省内においてどのような横断的取組を行っているか。
- ・輸出促進に向けた戦略として、米国のように品目別の生産者団体の設立を推進していく必要があるのではないかと。

林宙紀君（みんな）

- ・東北地方における木材供給の復旧のための予算を森林整備加速化・林業再生基金に積んだ理由は何か。また、被災地の復旧・復興の目的にどの程度合致した使われ方をしたと考えているか。
- ・森林吸収量の実績が、目標数値を超えて達成しているため、今後、多額の予算をかけてまで吸収源対策を継続する必要はないのではないかと。

- ・京都議定書の第二約束期間に参加せず、削減義務を負わない我が国が、引き続き森林吸収源対策の目標値を設定し、実施することに、どのような意義があるのか。